

下咽頭癌治療中に発症した前胸部化膿性筋炎の一例

坂井田 寛 大津 和 弥 湯 田 厚 司 竹 内 万 彦

三重大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室

【はじめに】化膿性筋炎（pyomyositis）は近傍組織からの直接的波及ではない骨格筋内の感染症で、外傷、栄養不良、悪性腫瘍、糖尿病、免疫不全などで生じやすいとされている。今回、我々は下咽頭癌にて入院加療中に前胸部にMRSA化膿性筋炎をきたした症例を経験したので報告する。

【症 例】症例は75歳男性。平成19年5月から当科にて下咽頭癌に対して放射線化学療法を開始した。7月21日から右前胸部鎖骨下に圧痛・発熱があり、血液培養にてMRSAが検出されたため塩酸バンコマイシンの点滴静注を開始した。7月27日には同部位が著明に腫脹し、エコーにて前胸部筋内に液体貯留を認めた。切開排膿したところ多量の膿汁を認め、血液培養と同様にMRSAが検出された。前腕静脈留置針刺入部に腫脹・硬結があり、本感染症の感染源と考えられた。抗生物質投与、局所洗浄にて血液検査所見・画像所見・局所所見とも改善した。下咽頭癌に対する治療を完遂して退院し、現在外来経過観察中である。